中学３年生

国際理解と平和

川田基生・鈴木克彦
鈴木善晴・大林直美・山崎辰雄

【抄録】 中学３年では広島と大久野島へのフィールドワークを中心に、国際理解と平和の学習を展開した。事前の名古屋での聞き取り調査、事前学習、フィールドワークの成果の発表会、研究集録の編集が主な内容である。

【キーワード】 国際理解　平和　公民学習　折鶴　総合学習　広島

Ⅰ　学年テーマ

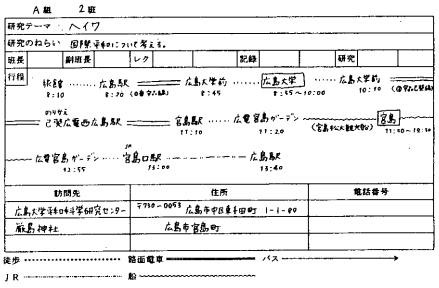
本校の中・高６年一貫の総合学習の展開の中で、中学３年は「国際理解と平和」をテーマとしている。テーマを固定して数年になるが、各教科で、広島学習に即した教材が配置され、広島フィールドワークについての経験の蓄積も進んできている。

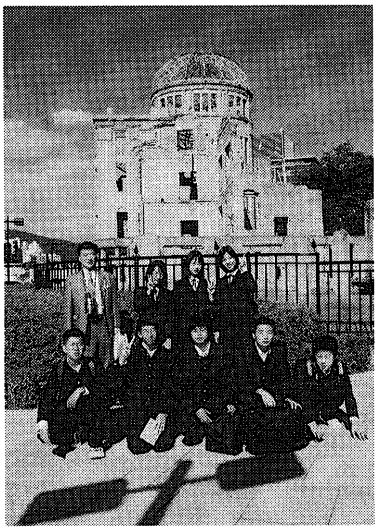
Ⅱ　年間の授業展開と活動内容

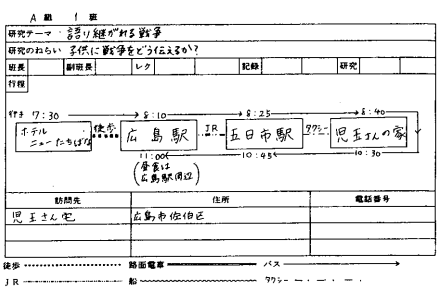
４月　オリエンテーション
５月　身近な人から戦争体験の聞き取り
６月　広島学習　ヴィデオ　20世紀の歴史
７月　研究旅行組織作り　班別テーマ、訪問先の決定
９月　班別事前学習
10月　事前発表会
11月　広島大久野島研究旅行
12月　研究旅行事後学習　研究発表会
１月　研究集録原稿書き
２月　研究集録完成
３月　総合人間科自己評価

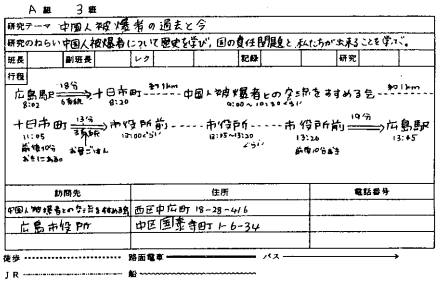
Ⅲ　生徒の取り組み

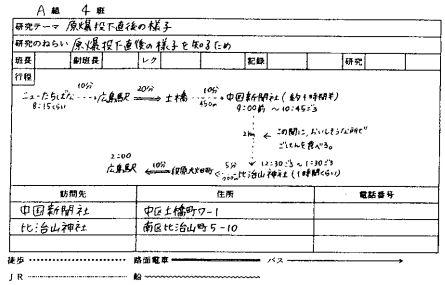
平和学習の中で１番印象に残っていることは、やはりフィールドワークのことです。
私たちA－３班は中国人被爆者との交流をすすめる会の加藤さんと栗栖さんにお話を聞きました。
栗栖さんはフィリピン生まれで、中国人の人が働いていた所の近くに住んでいたそうです。そこで仲良くなった人もいたそうで、いろいろなお話をしてくださいました。
今回のフィールドワークの中で１番心に残っている言葉は、加藤さんが最後におっしゃった、
「自分というものをちゃんと持ち、
人の命を大切にする。」
という言葉です。
これから先の人生いろんな事があると思うけど、その中の"何か"に、この言葉が通じているのかなあと思いました。










A組　4班

研究テーマ　原爆投下直後の様子

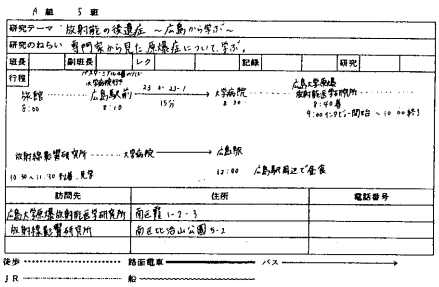
研究のねらい　原爆投下直後の様子を知るため

班長	副班長	レク	記録	研究

行程

訪問先	住所	電話番号
中国新聞社	中区土橋町7-1	
比治山神社	南区比治山町5-10	

徒歩 …… 路面電車 ―― バス ――
JR …… 船 ――


A組　5班

研究テーマ　放射能の後遺症 ～広島から学ぶ～

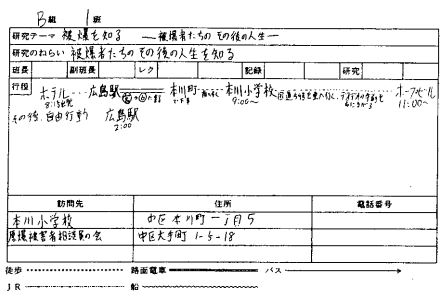
研究のねらい　専門家から見た原爆について学ぶ。

班長	副班長	レク	記録	研究

行程

訪問先	住所	電話番号
広島大学原爆放射能医学研究所	南区霞1-2-3	
放射線影響研究所	南区比治山公園5-2	

徒歩 …… 路面電車 ―― バス ――
JR …… 船 ――


B組　1班

研究テーマ　被爆を知る ―被爆者たちのその後の人生―

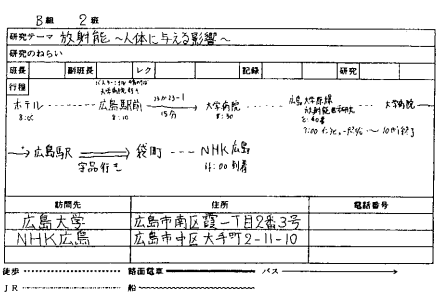
研究のねらい　被爆者たちのその後の人生を知る

班長	副班長	レク	記録	研究

行程

訪問先	住所	電話番号
本川小学校	中区本川町一丁目5	
被爆体験者招待の会	中区大手町1-5-18	

徒歩 …… 路面電車 ―― バス ――
JR …… 船 ――


B組　2班

研究テーマ　放射能 ～人体に与える影響～

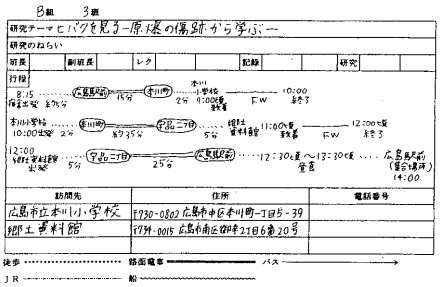
研究のねらい

班長	副班長	レク	記録	研究

行程

訪問先	住所	電話番号
広島大学	広島市南区霞一丁目2番3号	
NHK広島	広島市中区大手町2-11-10	

徒歩 …… 路面電車 ―― バス ――
JR …… 船 ――


B組　3班

研究テーマ　ヒバクを見る―原爆の傷跡から学ぶ―

研究のねらい

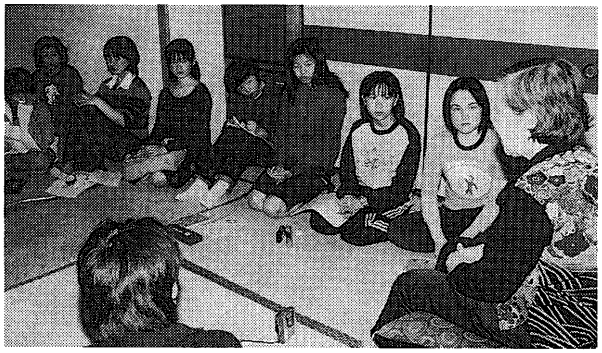
班長	副班長	レク	記録	研究

行程

訪問先	住所	電話番号
広島市立本川小学校	〒730-0802 広島市中区本川町一丁目5-39	
郷土資料館	〒739-0015 広島市南区猿猴橋3丁目6番20号	

徒歩 …… 路面電車 ―― バス ――
JR …… 船 ――

Ⅳ　生徒の活動の感想、写真



私が1番総合人間科で充実したのは、フィールドワークです。

私たちの班は、中国新聞社と比治山神社に行きました。中国新聞社では、昔の新聞や資料などを見せてもらったりして、その事実に驚きました。田城さんには、おいしい広島焼屋さんを紹介してもらったりしてとても楽しかったです。

比治山神社では、少し遅れてしまいました。しかし、神主さんはやさしく迎えてくれました。戦後生まれにもかかわらず、とてもくわしく教えてくださいました。

広島の人は、みんないいんだなあと思いました。そして、広島に住んでみたいと思いました。

今回のフィールドワークは今までよりもっと大変なものでした。でも楽しかったです。

僕達はこの旅行で、色々なことを学びました。その中で一番心に残ったのが、やはり語り部さんの話でした。僕達が話を聞いた語り部さんは、加藤さんという人でした。加藤さんは、原爆を落としたB29を見た数少ない人の一人です。加藤さんは原爆によって父を失い、その後原爆によって親を失った子供たちの世話をしました。その話をしていたとき、加藤さんは当時の事を思い出して泣いてしまい、とても申し訳ない気持ちになりました。

戦後58年経った今でも思い出して泣いてしまうような出来事を、アメリカ・アフガニスタンは繰り返そうとしているのか、と思い、自分も悲しくなりました。早く戦争が終わればいいと思います。

～FIN～

Ⅴ　キャリア形成とのかかわり

本校では青年期のキャリア形成を従前の進路観、職業観でとらえているわけではなく、将来にむけての自己実現をめざす力の育成をキャリア形成と捉えている。中学３年の総合学習は班別の広島フィールドワークを核としており、グループ内での自己実現が課題となる。この要素は日本の社会に生きる者にとっては必須の課題であろう。

Ⅵ　課題と展望

本校は広島学習に二十年近く取り組んでいる。最近気になることは被爆証言の方の高齢化および世代交代である。広島の方でも、若いと証言があいまいになる。同じ場所で、その方の（今は亡くなった）お祖母さん、お父さんの被爆証言を、生徒と共に、全神経あげてうかがった教師としては、ある種のとまどいを覚えるのである。見方を変えれば、広島に学んだ生徒たち、教師たちこそ、被爆者の方々にとって、実の子よりも詳しい被爆体験の継承者なのであろうか。このような事情を加味して今後の学習は組み立てられていかねばならない。

（文責：川田基生）